

滋賀医科大学

環境報告書 2017

(平成 28 年度活動報告)



本学では環境に配慮するため用紙媒体での公表は控え、Web 上でのみの公表いたします。

編集方針、目次

編集方針

～「環境報告書 2017」の編集にあたって～

本報告書にて、国立大学法人滋賀医科大学の環境・社会活動について、平成 28 年度の取り組みと実績、今後の計画を報告します。施設課にて作成し、建築・環境委員会及び役員会で審議しました。

目次

1. トップメッセージ	p.2
2. 大学概要	p.4
3. 報告対象	p.6
4. 環境負荷	p.7
4.1. マテリアルフロー	p.7
4.1.1. エネルギー消費量	p.8
4.1.2. 温室効果ガス排出量	p.10
4.1.3. 電気・ガス消費量	p.12
4.1.4. 水使用量	p.13
4.2. 廃棄物排出量	p.14
4.3. グリーン購入状況	p.16
4.4. 古紙回収の状況	p.16
5. 環境目標・実績	p.17
6. 環境・社会活動情報	p.18
7. 環境報告書まとめ	p.23
8. その他	p.24

1. トップメッセージ



滋賀医科大学学長塩田浩平

滋賀医科大学は、「一県一医大」構想の下、医学部医学科の単科大学として昭和 49 年に開学しました。附属病院の開院や大学院医学系研究科の設置を経て現在に至っています。

この間、日本と世界をとりまく環境問題の状況は大きく変化しました。

1950～60 年代は急速な工業化に伴い各地で公害が発生、その対策が国レベルで行われました。環境庁の設置や公害関係法令の整備がこの時期に行われています。その後、1980 年代から 90 年代になると、環境問題は国際化していきます。オゾン層破壊や酸性雨など、一国では解決できない問題が重要視されるようになってきました。それを受けて、「持続可能な発展」というキーワードのもと、1992 年に国連環境開発会議が実施されると、引き続き気候変動や生物多様性に関する重要条約が成立し、多国間での対応枠組みができて今日に至っています。

このような時代背景において、本学も環境問題への取り組みとして様々な対応を行ってきました。

「公害」の時代は、現在から見れば緩やかな対応でしたが、環境問題が国際化した 1990 年以降は、本学もいよいよ環境への本格的な配慮を払う必要に迫られてきました。特に重要なのは、エネルギーとそれに伴う温室効果ガス排出の問題でした。附属病院をかかえる本学は、エネルギーをどうしても

多く消費してしまいます。そのエネルギー消費をできるだけ少なくすることが最も重要と考え、対策を実施してきました。本学は平成 23 年度に病院再開発事業が完了し診療や研究活動等が活性化したことにより必要なエネルギー量が一時的に増加していますが、その後は漸近的に消費エネルギー量が減少傾向にあります。これはひとえに、構成員(教職員学生)の省エネ意識の向上や各種省エネ活動の成果と考えています。

また、滋賀医科大学では、平成 28 年度からの第 3 期中期目標・中期計画において、“環境に配慮したキャンパス環境を創造するため、省エネルギー計画を策定し、施設設備の点検・評価に基づき、ESCO 事業の活用を含めた施設整備再生計画を実施する。”と策定しました。今後も大学としての活動が活発化していき必要なエネルギー消費量が増加していく中で、エネルギー消費量の削減に取り組んでいく必要があります。そのための戦略のひとつとして空調・変圧器等の高効率化など省エネ性の高い機器への改修を積極的に推進するとともに、学生・教職員に対し空調の適切な温度設定、空調・照明の使用時間の節約等自身で可能な省エネ・節電行動に努めていきます。

滋賀医科大学は、第 3 期中期目標期間のキーワードとして、“3C”

- 1.Creation(優れた医療人の育成と新しい医学・看護学・医療の創造)
- 2.Challenge(優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦)
- 3.Contribution(医学・看護学・医療を通じた社会貢献)

を掲げ、地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献して参ります。

2.大学概要

役員

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学長	塩 田 浩 平
理事	山 田 尚 登
理事	松 末 吉 隆
理事	小笠原 一 誠
理事	山 木 宏 明
監事	船 橋 恵 子
監事	井 尻 正 博

職員・学生数

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

職員数

役員	5(2)	人
教員	369(2)	人
事務職員	137	人
技術職員	783	人
計	1294(4)	人

(注)()内の数字は、外数で非常勤を示します。

※講師に外国人教師は含まず。

医学部学生数(学生定員)

医学科	685	人
看護学科	260	人
計	945	人

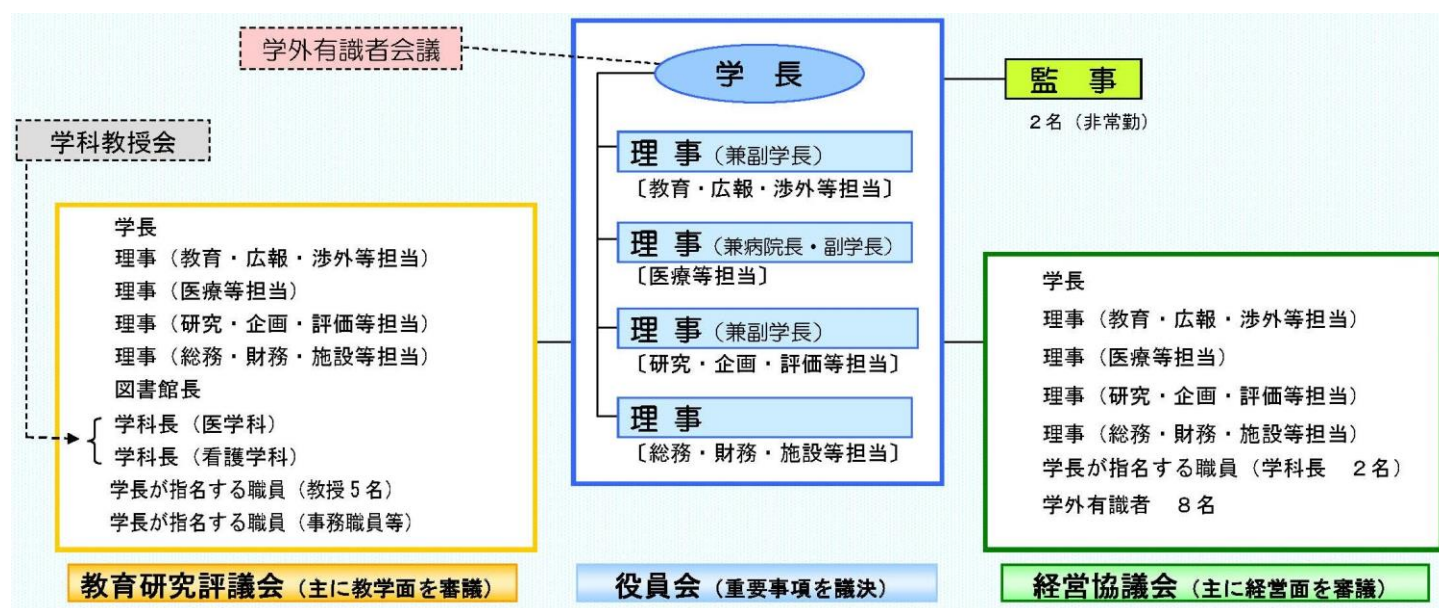
大学院医学系研究科学生数	152	人
--------------	-----	---

土地・建物

土地	233,018m ²
建面積	43,518m ²
延面積	126,544m ²

管理運営組織図

(平成 29 年 5 月 1 日現在)



3.報告対象

期間 平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

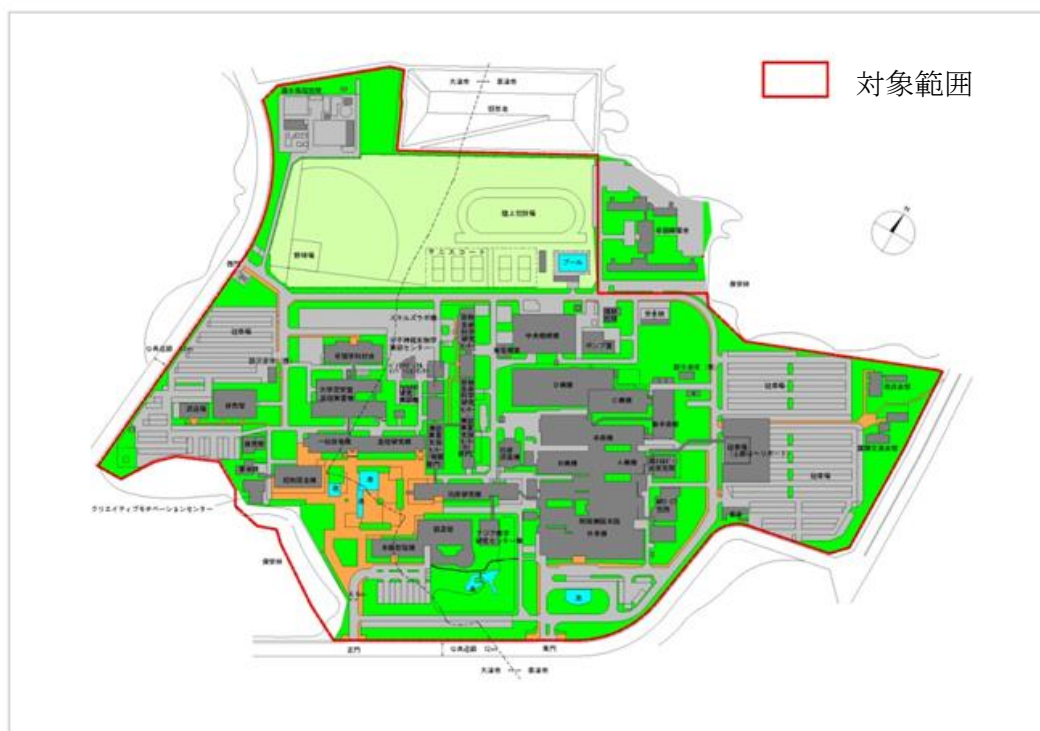
範囲 医学部、医学部附属病院、附属図書館、事務部門
(瀬田月輪団地の看護師宿舎を除く全てを対象としています。)

公表時期 平成 29 年 9 月

次回公表時期 平成 30 年 9 月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告書の記載事項の手引き(最新版)」



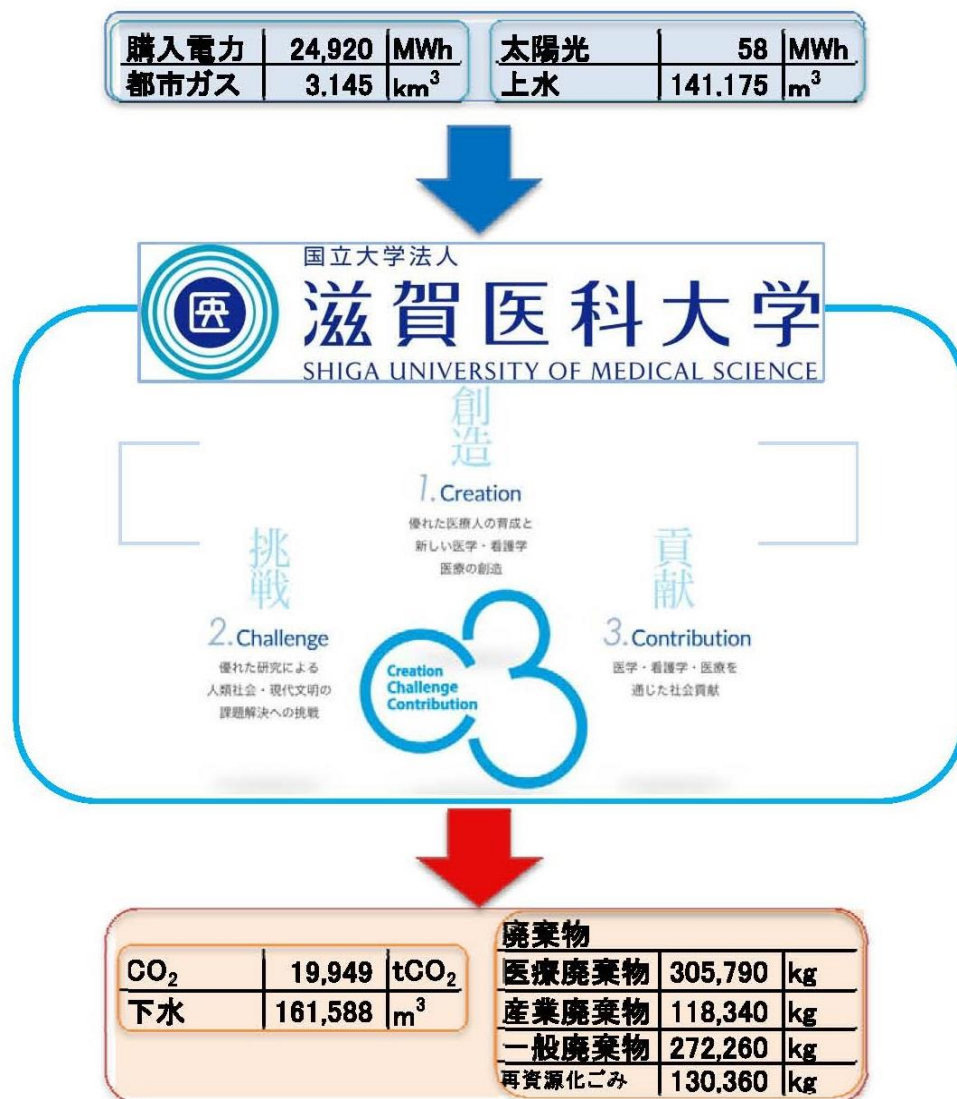
構内配置図

4.環境負荷

平成 28 年度に滋賀医科大学で消費されたエネルギー量等(電気ガス上下水道)、廃棄物排出量および環境負荷について示します。

4.1.マテリアルフロー

本学の資源・エネルギーの供給・消費と廃棄物等の排出をマテリアルフローとして以下にまとめました。



上水には、大学構内で汲み上げた井戸水を RO 膜等で処理したものをあわせて使用しています。

4.1.1 エネルギー消費量

本学のエネルギー消費量を電力・都市ガス使用量より算出した結果を下記に示します。

平成 28 年度は平成 27 年度と比較して、エネルギー総量およびエネルギー原単位で約 3.3%の増加となりました。

エネルギー消費量の増加の理由として、MRI 装置の増加、ボイラーインバーターの故障および、気象条件が厳しくなったことが挙げられます(9 ページ注 1 参照)。

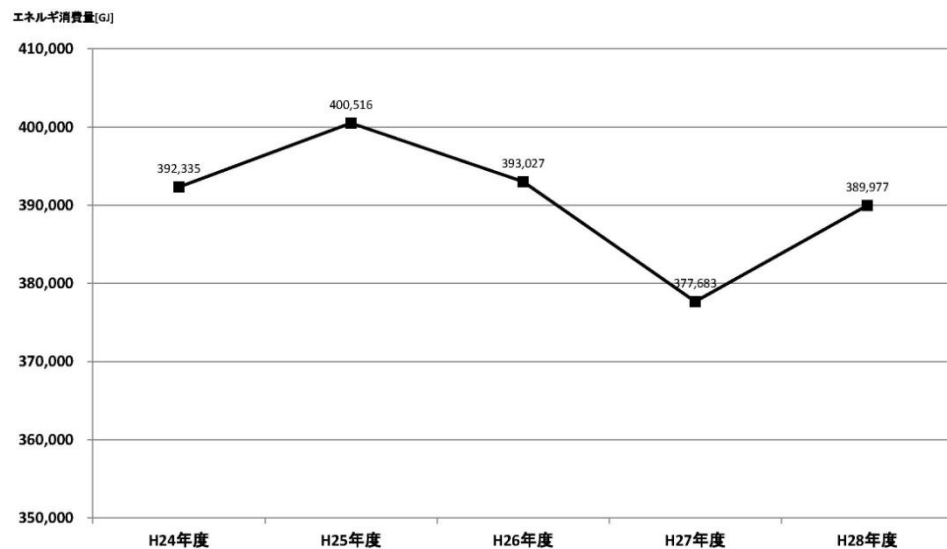


表 1. 過去 5 年間の総エネルギー使用量の推移

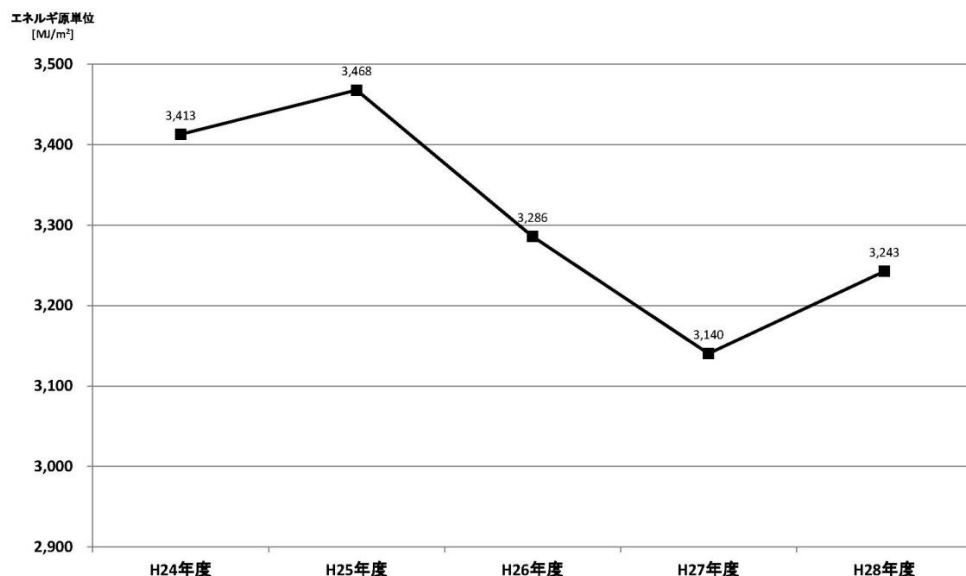


表 2. 過去 5 年間の建物延床面積あたりのエネルギー使用量の推移

注 1)

前年度と比較した本学のエネルギー増減要因は以下のとおりです。

【削減要因】

① RI診療部空調温度設定

冷房が利きすぎていたRI診療部の温度設定を適正にすることで 0.2%(901GJ)削減しました。

② 病院空調機更新

病院の空調機を最新の高効率型にすることで 0.3%(1244GJ)削減しました。

③ 外気量の適正化

病院における換気外気量を適正化することで空調に要するエネルギーを 0.7%(2813GJ)削減しました。

④ 省エネキャンペーン

省エネキャンペーンにより 1.3%(4909GJ)削減しました

【増加要因】

⑤ 気象条件による影響

気象条件が前年度に比べて以下のように悪化しました。

5月～10月平均気温 平成27年度 22.3℃→平成28年度 23.2℃

4月、11月～3月平均気温 平成27年度 9.3℃→平成28年度 8.2℃

過去のエネルギー使用量と平均気温の関係を分析した結果、気象条件の悪化により少なくとも 5%(18884GJ)増加しています。

⑥ ボイラー故障による影響

ボイラー省エネ運転用インバータ装置の故障により 0.8%(3021GJ)増加しました。故障したインバータ装置は、平成29年10月修理予定です。

4.1.2.温室効果ガス排出量

本学の温室効果ガス排出量に関わる対象物質は電力・都市ガスとなります。平成 28 年度は 19,343[tCO₂]であり、排出原単位(建物延床面積あたり)161[kgCO₂/m²]の排出となりました。

前年度排出量と比較し、総排出量および排出原単位ともに増加となりました。理由としてエネルギー消費量の増加が挙げられます(9 ページ注 1 参照)。

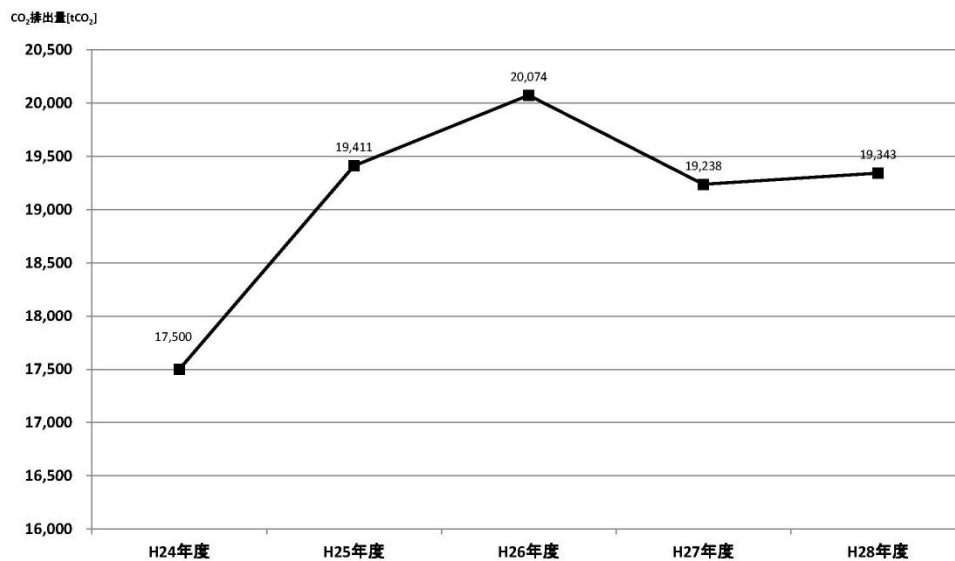


表 3. 過去 5 年間の CO₂ 総排出量の推移(調整後係数)

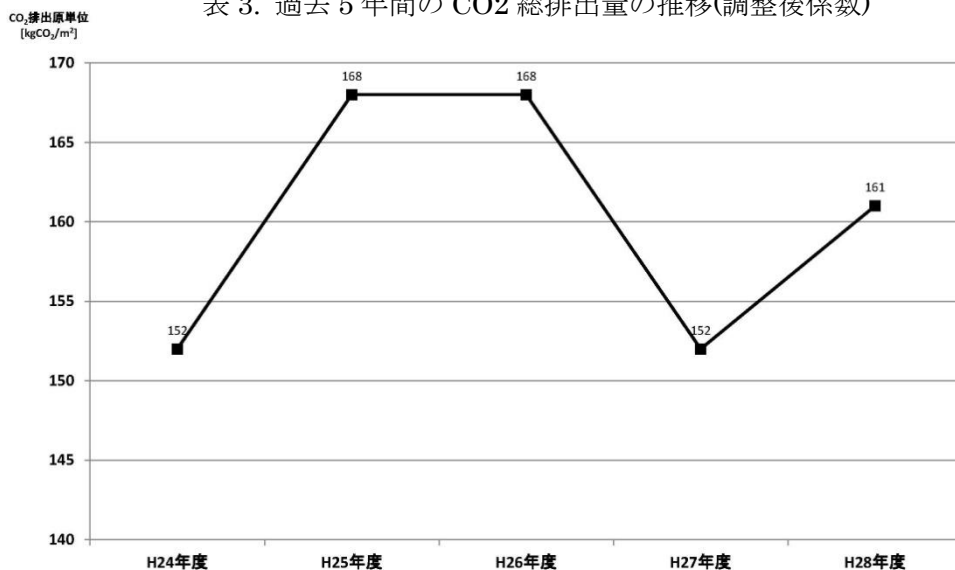


表 4. 過去 5 年間の建物延床面積あたりの CO₂ 排出量の推移(調整後係数)

本学の CO₂ 排出はほとんどがエネルギー由来となっています。
またデフォルト値での総排出量は 20,888[tCO₂]、排出原単位(建物延床面積あたり)
174[kgCO₂/m²]となりました。

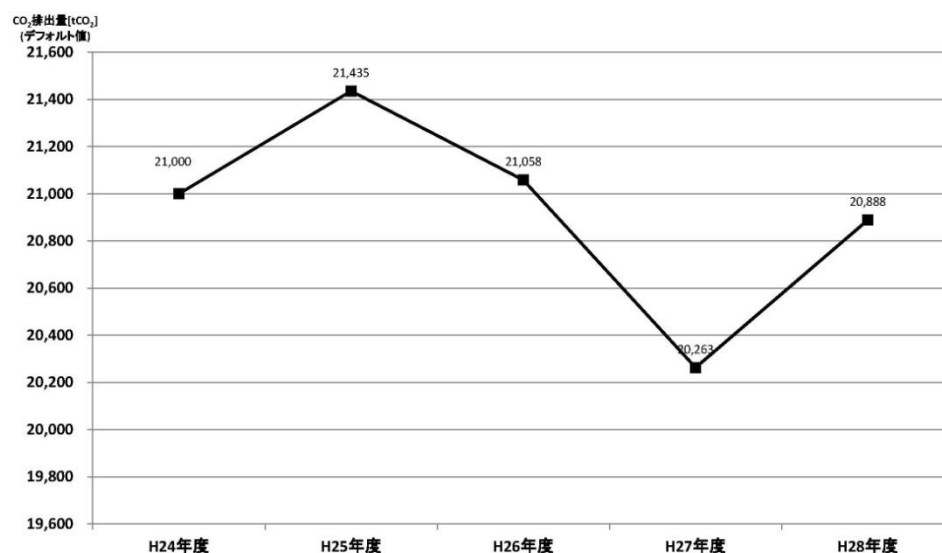


表 5. 過去 5 年間の CO₂ 総排出量の推移(デフォルト値)

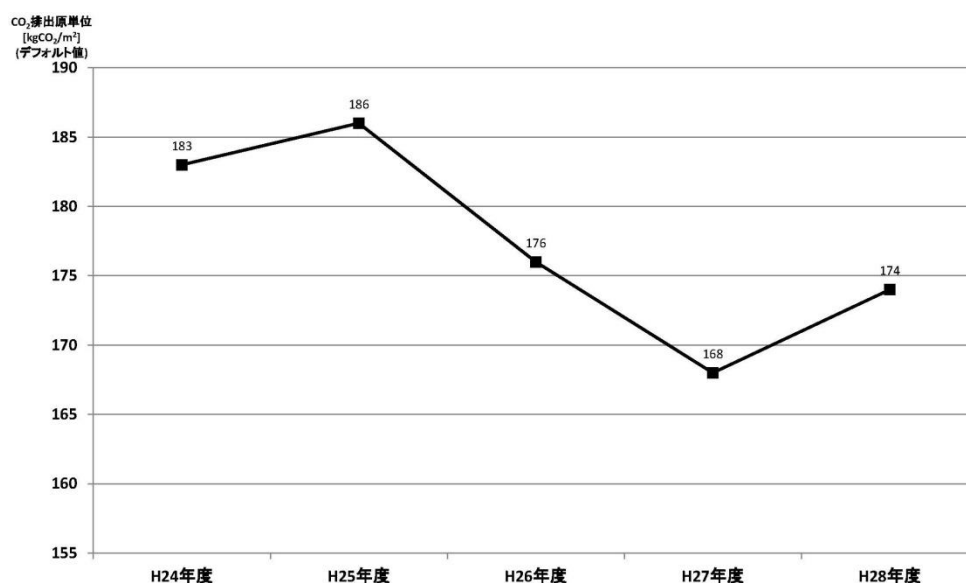


表 6. 過去 5 年間の建物延床面積あたりの CO₂ 排出量の推移(デフォルト値)

※本学の H28 年度電力購入先：サミットエナジー(株)
上記 CO₂ 排出係数：0.493tCO₂ / MWh

4.1.3.電気・ガス消費量

以下に電力・都市ガスの使用量の推移を示します。

電気・ガス共に平成 27 年度に比べて消費量が増加しています。これは大学の活動の活性化(MRI 装置の増加)によるエネルギー消費量の増加およびインバーターの故障・気象条件が厳しくなった事が考えられます(9 ページ注 1 参照)。

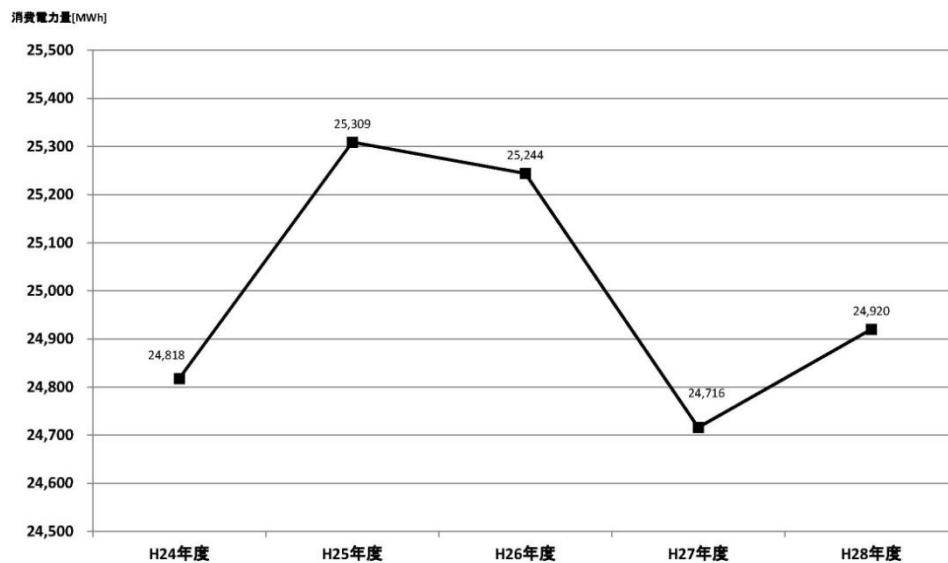


表 7. 過去 5 年間の電力使用量の推移

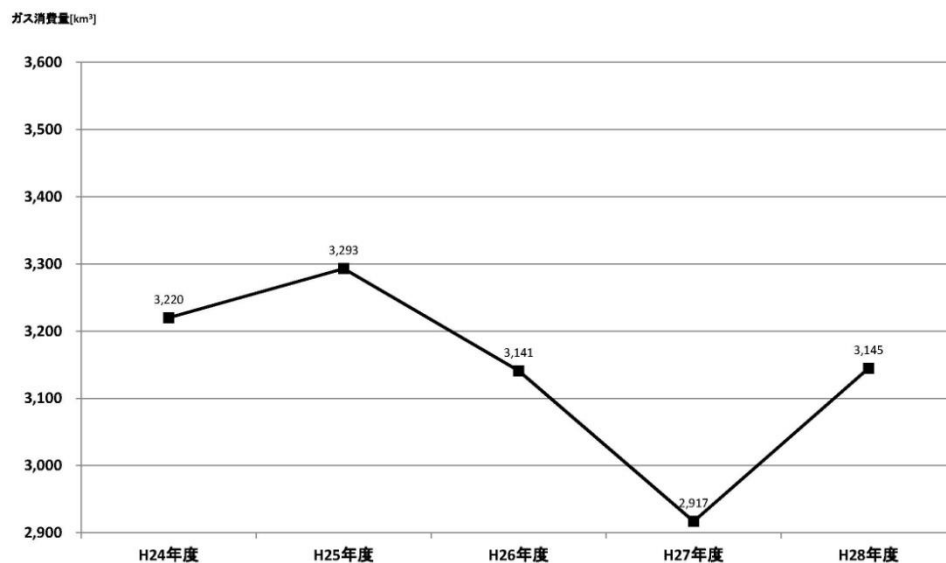


表 8. 過去 5 年間の都市ガス使用量の推移

4.1.4.水使用量

以下に上下水および中水^{注1)}の使用量を示します。

上水・中水共に使用量はほぼ現状維持となっております。

※上水に大学構内で汲上げた水^{注2)}を含みます。

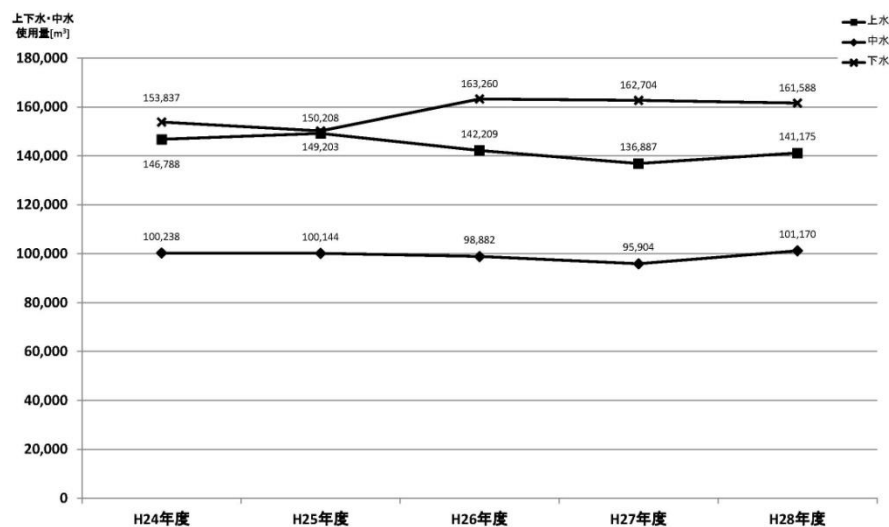


表 9. 過去 5 年間の上下水・中水使用量の推移

注 2) 中水とは

滋賀医科大学にて排水された実験排水を薬品処理した再利用水と、地下水を汲み上げろ過塔にて処理した水を合わせたものです。主な使用用途としてトイレの洗浄水が挙げられます。

注3) 大学構内で汲上げた水

滋賀医科大学構内に採水プラントを設置し、井戸水を浄化することにより、低コストで上水(飲用水)を供給することができます。また災害時にも自己水源で安定して供給することが可能となっています。

4.2.廃棄物排出量

以下に廃棄物の排出量の推移を示します。本廃棄物とは医療廃棄物、産業廃棄物、一般廃棄物、再資源化ごみを示します。ごみが増えた理由は臨床講義棟の改修、病院の稼働率が上がったことがあげられます。

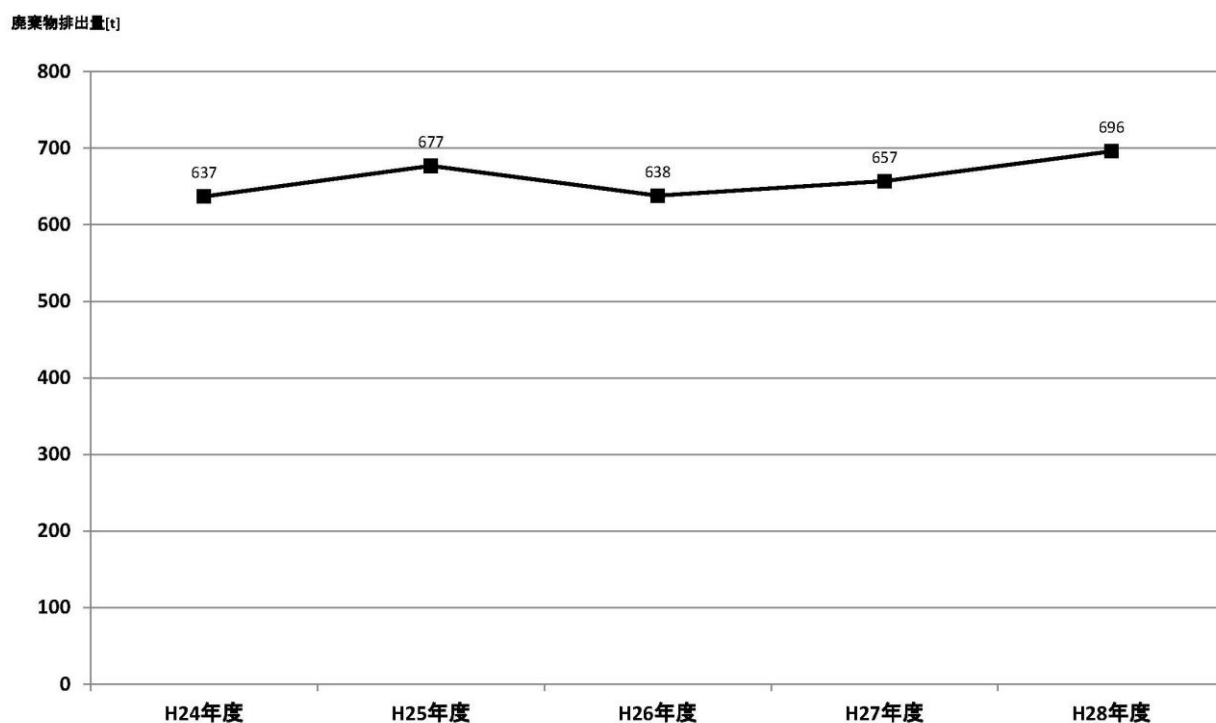


表 11. 過去 5 年間の廃棄物排出量の推移

【廃棄物の適正な処理】

（医療廃棄物について）

医療廃棄物とは、血液・血清・血漿並びに体液、血液製剤、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられた試験器具・培地・透析器具、血液等が付着した鋭利なもの及びその他血液が付着したものが廃棄物として排出されたものを指します。本学では、「滋賀医科大学排水・廃棄物管理等規程」を制定し、管理体制を整備するとともに、これら感染性廃棄物の搬出・処理の過程において感染事故が発生しないよう努めています。

また、基本的には医療廃棄物は発生時点で他の廃棄物と分別して排出し、絶対に混入してはならないことになっています。従って、医療廃棄物を排出する際には必ず本学が指定する専用の段ボール箱又はポリ容器を使用し、その管理には万全を期しています。

（医療廃棄物の処理）

医療廃棄物は、各部署から専用の段ボール箱及びポリ容器で搬出され、清掃請負業者によって専用の集積場所に搬入されています。そして、ここに集められた医療廃棄物は、産業廃棄物委託業者が週に 4 回程度の割合で収集運搬・処理をします。その際には、電子マニフェストシステムに登録して排出から最終処分までの処理が適正に行われていることを確認しています。

（産業廃棄物について）

産業廃棄物については、医療用に用いられたプラスチック類、医療用缶、医療用ビン、その他一般用ビンなどに分かれます。これらの分別された産業廃棄物は適切に処分し、一部はリサイクルされています。

（一般廃棄物について）

一般廃棄物については日常生活で発生する一般ごみ、缶、ペットボトルに分類されます。この中で一般ごみは、本学の所在地である大津市の分別方法に従って分別しており、分別された一般廃棄物は大津市の処分場に搬入しています。また、缶及びペットボトルは再資源化ごみとして処理しています。

（廃棄物の分別について）

廃棄物の分別については、「滋賀医科大学における廃棄物の分別方法」の一覧表を作成し、関係部署に周知しています。この一覧表は区分毎に例示図柄を用いることにより、一目で確認できるよう工夫しています。

4.3.グリーン購入状況

本学では、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づき、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進め、毎年度の状況の実績を関係省庁に報告しています。

環境負荷低減に資する製品・サービスとは、グリーン購入法において、「原材料・部品・製造方法等や、使用時に環境への負荷を低減しているもの」「これらの製品等を用いて行われるサービス」等を言い、これらの製品にはカタログにグリーン購入法適合商品を意味するグリーンマークやエコマーク等の環境保護マークが付され、選びやすくされています。

物品の選択にあたって、本学でも環境保護マークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めると共に、特定調達品目にはされていないトナーカートリッジの調達に当たっては、出来る限り再生品の調達に努めています。

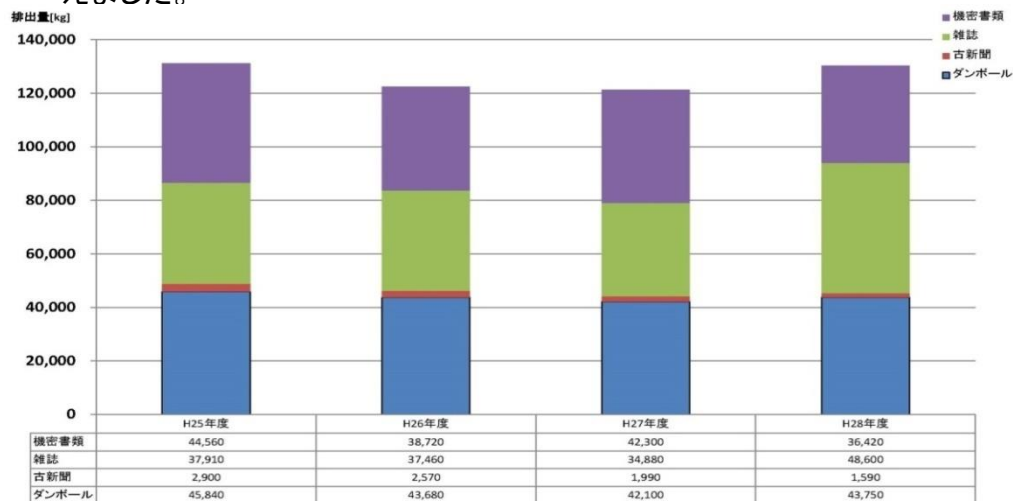
また、OA 機器、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものの調達に努めるなど環境保全に配慮された物品を調達することに配慮しています。

そのほか、役務の提供事業者、公共工事の受注事業者等に対しても、グリーン購入を推進するよう働きかけています。

4.4.古紙回収状況

本学では古紙回収を実施しており、月 1 回程度専門の業者が回収し資源化しています。過去 4 年間の回収実績は下記の通りとなります。

昨年は、臨床講義棟改修工事に伴って雑誌類が増えたので回収量が増えました。



5.環境目標・実績

環境側面		目標	実績	実施事項
エネルギー		建物延床面積 あたり前年度 比1%以上の削減 3,140 MJ/m ²	3,243 MJ/m ² 前年度比 3.3% 増加	照明の部分消灯
				照明のLED化
				パソコン省電力の徹底
				エアコン消し忘れ防止
				自動販売機の消灯
				クールビズの実施
				外灯制御
				太陽光パネルの清掃
				環境に配慮した工事の実施
				附属病院等の最新型空調機器の導入
資源	上下水	現状維持 上水：136km ³ 下水：162km ³	上水：141km ³ 下水：161km ³	節水コマの使用
				自動水栓の導入
				節水型便器の導入
				月別上下水道の使用量のHPでの掲載
				中水の活用
	廃棄物	現状維持 657t	696t	メール等を用いた不要物品のリユース
				3R $\left\{ \begin{array}{l} \text{リユース} \\ \text{リデュース} \\ \text{リサイクル} \end{array} \right\}$ の実施

6.環境・社会活動情報

【ソフト面での省エネ・省資源対策】

○省エネルギー・省資源への啓発活動

電気需要平準化時間帯における電気使用量の削減を目標とした省エネ活動を中心に活動を進めました。

具体的な内容を下記に示します。

- ・HP や学内掲示板への具体的なエネルギー対策の公開
- ・照明の部分消灯(間引き等を含む)
- ・照明の LED 化(病棟のベッド灯等球切れしたものから順次 LED 電球に取替)
- ・夏季の暖房便座の電源 OFF(洗浄機能は使用可能)
- ・パソコンの省電力の徹底(HP に節電マニュアルの公開)
- ・エアコンの消し忘れ防止(一定時間に強制 OFF 設定)
- ・自動販売機照明の消灯
- ・クールビズの推進
- ・夜間の人通りが無い箇所の外灯の消灯
- ・太陽光パネルの清掃(6GJ のエネルギー効率の改善の見込)
- ・病床の空調機のフィルター清掃回数の見直し
- ・RI 診療部の管理温度の適正化
- ・附属病院の外気取入れ量の見直し

【ハード面での省エネ・省資源対策】

○環境に配慮した建物改修工事

平成 28 年度には附属病院の一部の改修工事(高効率のエアコンへ更新等)を実施しました。

下記の写真の工事では GHP エアコン 4 台(室外機)および EHP パッケージエアコン 28 台の更新を実施いたしました。これにより 340GJ(H28 年度消費エネルギー量の 0.09%に相当)の削減が見込めます。



○井水浄化供給システムの井戸の追加

平成 26 年 8 月に導入した井水浄化供給システムの井戸を追加しました。これにより通常時だけでなく災害時、さらに水の安定供給が可能となりました。



○滋賀医科大学中長期省エネルギー計画

下記のような中長期省エネルギー計画を作成しました。今後はこの計画に則り、ハード面での省エネルギーを推進していきます。

この計画通りに実施することで、平成26年から平成34年までの8年間で総エネルギー消費量を13.3%削減できる見込です。これは年平均1.7%の削減にあたります。またこれを実施するためには1.9億円前後の費用が必要となると考えています。

またボイラーインバーターの故障の修理により、電気使用量が年間126MWh、ガス使用量が27km³の削減が見込めます。これらはそれぞれ年間使用量の0.5%および0.86%に相当します。エネルギー消費量としては2,471GJ(H28年度エネルギー消費量の0.63%)となります。

単位: GJ												
項目	概要	削減 電気量 (kWh)	削減 ガス量 (m ³)	工事費 (千円)	年間削減 光熱費 (千円)	回収年	H29	H30	H31	H32	H33	H34
							省エネ量	省エネ量	省エネ量	省エネ量	省エネ量	省エネ量
臨床高効率エアコン	中央熱源方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを計る	-94,238	75,390	226,563	5,356	42	1,227	1,227				
臨床基礎コンベクター撤去	不要となっているコンベクターを撤去し、放熱ロスを減らす	-832	2,275	130	200	1	47	47				
臨床空調換気扇	空調換気扇を導入	0	8,142	21,221	772	27	183	183				
臨床高効率照明	効率のよい照明器具に更新	139,500	0	25,384	2,651	10	695	695				
病院第一電気室変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	27,852	0	6,297	529	12						
廃水処理施設高効率照明	効率のよい照明器具に更新	3,540	0	3,442	67	51	35					
国際交流会館変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	3,833	0	779	73	11						
実験実習支援センター高効率エアコン	中央熱源方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを計る	83,643		52,926	1,589	33	417	417				
実験実習支援センター空調換気扇	空調換気扇を導入	0	4,517	11,772	428	27	102	102				
実験実習支援センター高効率照明	効率のよい照明器具に更新	111,825	0	20,470	2,125	10	372	372			372	
病院高効率エアコン	再開発時に更新しなかったエアコンが耐用をむかえるため更新する	-95,571	76,457	235,203	5,142	46				1,244		
RI動物実験施設高効率エアコン	中央熱源部分を最新型熱源に更新し、省エネを計る	-1,733,688	416,085	302,306	6,505	37			719	719		
動物実験施設冷凍機更新	老朽した冷凍機を最新高効率型に更新	91,440	0		1,737					912		
RI動物実験施設空調換気扇	空調換気扇を導入	0	39,629	11,054	3,757	3			892	892		
RI動物実験施設高効率照明	効率のよい照明器具に更新	104,063	0	19,099	1,977	10			519	519		
中央機械棟変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	27,157	0	7,418	516	14	271					
看護学科高効率エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	126,819	0	54,900	2,410	23		421	421	421		
管理棟高効率照明	効率のよい照明器具に更新	52,125	0	8,038	990	8		520				
管理棟高効率エアコン	老朽化したGHPを新型QHPIに更新	0	2,603	4,200	247	17						
基礎研究棟高効率エアコン	中央熱源方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを計る	-87,294	69,836	201,453	4,962	41			1,136	1,136		
基礎研究棟空調換気扇	空調換気扇を導入	0	7,542	19,658	715	27			170	170		
基礎研究棟高効率照明	効率のよい照明器具に更新	10,238	0	2,821	195	15			51	51		
一般教養棟高効率エアコン	中央熱源方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを計る	-32,445	19,467	74,875	1,229	61					553	
一般教養棟空調換気扇	空調換気扇を導入	0	2,803	7,306	266	27					63	
一般教養棟高効率照明	効率のよい照明器具に更新	80,775	0	13,738	1,535	9					805	
コラボレーションセンター高効率空調	設置後15年が経過しているため、高効率エアコンに更新	45,864	0	20,679	871	24					457	
中央熱源更新	中央機械棟の冷凍機、ボイラーを更新	1	57,548	1,152,934	5,456	211						11,779
中央機械棟高効率照明	効率のよい照明器具に更新	40,388	0	10,241	767	13						403
外灯高効率照明	効率のよい照明器具に更新	131,019	0	23,100	2,489	9		1,308				

【社会・地域貢献活動】

本学では、教育・研究・診療等の活動を通じた社会・地域貢献を行っています。
本学は災害拠点病院でもあり地域との防災活動にも力をいれています。

○南海トラフ地震を想定した被災地外医療拠点として本格的訓練を実施しました。

7月29日(土)、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練が近畿地方を中心に実施されました。この訓練は、南海トラフ地震(想定M9.1、最大震度7)により三重県、大阪府、和歌山県を被災地として想定し、滋賀県では被災地よりヘリを使って傷病者を受け入れる被災地外の医療拠点の役割を検証することを目的とした、初めての大規模訓練となりました。

本学のグラウンドと体育館は、滋賀県から大津・湖南・甲賀地区の航空搬送拠点臨時医療施設(SCU)として指定を受けており、訓練では、県内から参集したDMAT隊員が滋賀県災害医療本部と連携し、被災地から傷病者を搬送してきたヘリをグラウンドに着陸させ、体育館で応急処置を行い、状態安定後の傷病者を本院救急部及び近隣病院へ搬送しました。

訓練終了後は参加した災害拠点病院のDMAT隊員を中心に訓練を振り返り、搬送用の緊急車両の不足などの問題を今後の活動に生かすため、改善点について活発な意見交換が行われました。

今回の訓練は被災地から離れた域外医療拠点におけるSCU展開ミッションの重要性を認識する機会となりました。



臨時医療施設本部の様子

○本学DMATが(災害派遣医療チーム)が近畿管区広域緊急援助隊合同訓練に参加しました。

11月15日(火)に鈴鹿西緑断層帯を震源とする地震の大規模災害を想定した、迅速かつ的確な災害救援活動を行うための広域緊急援助隊及び防災関係機関による合同訓練を実施しました。

本学からは、医師1名、看護師2名、業務調整員1名が、DMATカーで滋賀県警察本部生活安全部機動警察隊へ向けて出発し、現地では被災地域直近に活動拠点を設置して災害救援活動に参加しました



救護所訓練の様子

7.環境報告書まとめ

本報告書は平成 28 年度に滋賀医科大学が取り組んだ環境や社会への行動を報告しています。

平成 27 年度と比較し、平成 28 年度は総エネルギー使用量の増加に伴い、エネルギー原単位・CO₂ 排出量等が増加しました。これは診療活動の活性化(MRI 装置の増加)やボイラーインバーター故障によるエネルギー消費量の増加・気象条件が厳しくなったことが考えられます。平成 29 年度にボイラーの修繕が計画されているため、これにより平成 30 年以降のガス消費量の削減によるエネルギー消費量および、温室効果ガスの排出量の削減が見込めます。

滋賀医科大学ではエネルギー消費原単位を前年度比 1%以上削減を継続するための具体的な計画づくりに着手しています。老朽化した設備を最新の省エネタイプに更新していくことを中心とし、ソフト面でも学生や教職員の省エネ活動をより活発にするような計画の作成をしています。

長期的な省エネ活動により漸近的に総エネルギー消費量の削減ができているので、今後も省エネ活動を推進していきたいと思います。

8.その他

本報告書に関するお問い合わせは、下記まで。

作成部署・お問い合わせ先:

滋賀医科大学施設課施設企画係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL : 077-548-2052 FAX : 077-548-2049

e-mail : hqsisetu@belle.shiga-med.ac.jp

ホームページアドレス: <http://www.shiga-med.ac.jp/>

交通・アクセス:

■所要時間

- ・東海道本線(琵琶湖線)JR 京都駅から JR 瀬田駅まで約 20 分
- ・JR瀬田駅から大学病院までバス約 15 分
- ・JR瀬田駅から大学病院までタクシーで約 10 分
- ・JR南草津駅から大学病院までバス約 15 分
- ・名神高速道路草津田上インターチェンジから約 5 分
- ・名神高速道路瀬田(西・東)インターチェンジから約 10 分

■JRの場合

東海道本線(琵琶湖線)のJR 瀬田駅で下車。JR 瀬田駅から「滋賀医大」行きのバスに乗りし「大学病院前」で下車

※JR 瀬田駅には新快速は止まりません。快速または各駅停車をご利用下さい。また、JR 京都駅では琵琶湖線(草津、野洲、米原、長浜行き)と湖西線とお間違えないよう。

